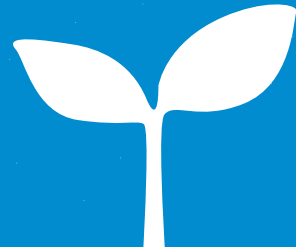


環境への配慮



<http://nichirei.co.jp/report/2014/environment/001.html> ホーム > CSRレポート2014 > 環境への配慮

グループ目標

ニチレイグループでは、グループ環境方針、グループ生物多様性方針を策定し、3つの重点課題に取り組んでいます。

● 地球温暖化防止の2015年度目標 (2013年度-2015年度)

電力使用量 :2009年度比 5.5%削減
 燃料由来CO₂ :2009年度比 7.5%削減
 *国内の事業所および所有車両で使用するエネルギー
 *比較可能な期間内継続稼働事業ベース(廃止・新設等による増減は含めない)

● 持続可能な資源循環の推進

食品工場、物流センターから排出される廃棄物リサイクル率99%の達成・維持

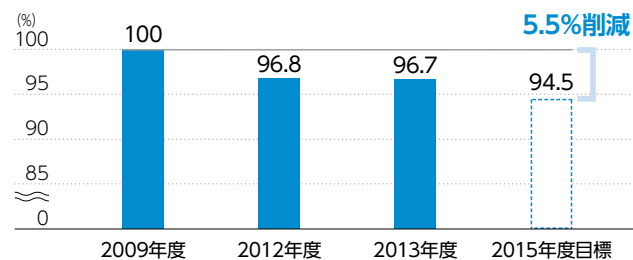
中期目標と実績

● 重点課題1：地球温暖化防止

2013年度～2015年度中期目標は電力使用量とCO₂排出量のトレンドが相反するため、電力排出係数を固定したCO₂排出量削減目標から電力使用量そのものの削減目標を定めています。加えて、燃料由来のCO₂排出量とは、これまでの活動実績や使用状況が異なることから、それぞれに目標を設定しています。対象は比較可能な事業所ベースとし、新設事業所については、省エネ設備導入を推進するとともに、個別状況に合わせた目標を掲げています。

2013年度の既存事業所電力使用量は、各事業所で設備更新や運用見直しなどに取り組みましたが生産量の増加などにより、2012年度比でほぼ横ばいとなっており、2009年度比で3.3%削減しました。また、2013年度の既存事業所燃料由来CO₂排出量は、食品工場のボイラー燃料転換などが成果を上げ、2012年度比で1.4%、2009年度比で5.7%削減しました。

■ 既存事業所電力使用量

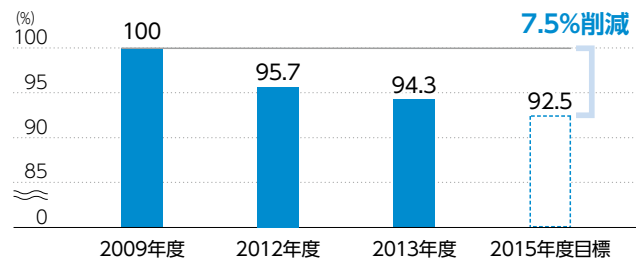


※ 2009年度を基準年(100%)としている。
 ※ 新設事業所を含む総電力使用量は、2009年度:445GWh、2012年度:449GWh、2013年度:455GWh

2013年度のグループCO₂排出量は、電力排出係数の上昇、事業所の新設などにより2009年度比で29%増加しました。しかしながら、係数を固定して比較した場合は、2%の増加にとどまっており、ほぼ横ばいとなっています。

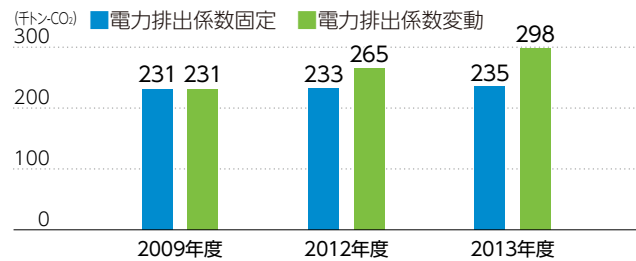
今後も、事業所におけるCO₂排出削減とあわせて、サプライチェーン全体での排出削減に取り組み、社会全体での排出抑制に貢献していきます。

■ 既存事業所燃料由来CO₂排出量



※ 2009年度を基準年(100%)としている。
 ※ 新設事業所を含む総排出量は、2009年度:40,540トン、2012年度:40,510トン、2013年度:40,370トン

■ ニチレイグループCO₂排出量の推移



※ 1 電力排出係数固定: CO₂排出量算定のための算出係数を2009年度に固定した場合
 ※ 2 電力排出係数変動: 上記を地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづき変動させた場合

WEB

ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しています。

- ▶ 環境方針 ▶ 生物多様性方針 ▶ 2020年度に向けた目標と重点課題 ▶ 環境マネジメント体制 ▶ ISO14001などの認証取得
- ▶ 環境監査 ▶ 環境事故、法令違反の状況 ▶ 環境社内教育: 環境展示会、環境e-ラーニングの実施、裏磐梯の社有地における体験型研修 他
- 【地球温暖化防止】▶ 食品工場におけるCO₂削減 ▶ 物流センターにおけるCO₂削減 ▶ オフィスにおけるCO₂削減 ▶ 物流におけるCO₂削減
- ▶ 商品におけるCO₂削減 ▶ 再生可能エネルギーの活用
- 【持続可能な資源循環の推進】▶ ごみの削減・リサイクル ▶ 化学物質管理 ▶ 水域・大気への排出抑制
- 【自然との共生】▶ 生物多様性

● 重点課題2：持続可能な資源循環の推進

地球上の資源を継続的に利用していくために、サプライチェーン全体での廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化に取り組んでいます。また、“食”とかかわる企業グループとして地球からの恵みである生物資源を効率的に無駄なく使うこと、使い切ることができなかったものも飼料や肥料などに再利用し循環させていくことにも注力しています。

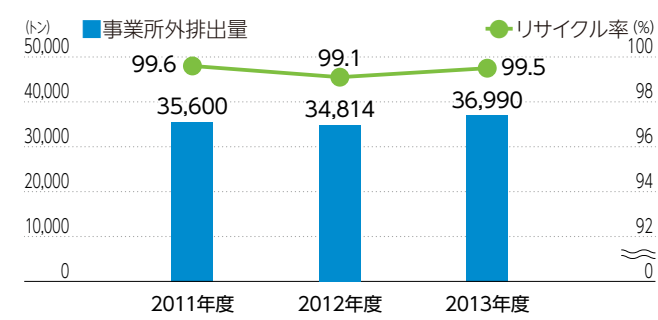
各事業会社が、廃棄物の排出量削減およびリサイクル率の

維持・向上を継続推進し、2013年度の事業所外排出量は36,990トンとなり、リサイクル率は99.5%となりました。現在、最終処分されている廃棄物には、紙くずなど地域によって事業系一般廃棄物の処理場が単純焼却している場合や、種類や量などによってリサイクル先が見つからない場合などありますが、発生の抑制も含めさらなる削減に取り組んでいきます。

● 重点課題3：自然との共生

ニチレイグループの事業は、豊かな地球からの恵みによって成り立っており、これは自然界の多様な生態系や生物種などによって維持されています。あらためてその重要性を再認識し、さらに取り組みを強化していくため、2010年度にグループ生物多様性方針を策定しました。今後も、原材料調達における周辺環境や生態系への配慮、食材を余すことなく使い切る、所有地周辺を中心とする自然保護活動、自然の大切さを伝えることなどに取り組んでいきます。

■ ニチレイグループ事業所外排出量とリサイクル率



マテリアルバランス

INPUT

原材料

166千トン

原料 *1 150千トン
 包装資材 16千トン

*1 2013年度から(株)フレッシュキーン軽米の原料12千トンを含む

エネルギー

5,125千GJ

購入電力	455,072千kWh	LPG	3,739トン
重油	3,803kℓ	ガソリン(社有車)	633kℓ
灯油	198kℓ	軽油(社有車)	957kℓ
都市ガス	6,135千m ³	太陽光発電	223千kWh

水

3,939千m³

上水	1,309千m ³
工業用水	655千m ³
地下水(井水)	1,975千m ³

OUTPUT

廃棄物

事業所外排出量 37.0千トン
 リサイクル量 36.8千トン
 最終処分廃棄物量 *2 0.2千トン

*2 事業所外に排出される廃棄物のうち、直接処分場に埋立てられる廃棄物およびエネルギー利用などがなく単焼却される廃棄物の量

大気系

CO₂ *3 298,094トン-CO₂
 SOx *4 8トン

*3 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき算出
 *4 測定実施のばい煙発生施設。車両由来含まず

水系

排水	2,290千m ³	排水負荷量	
下水道	1,439千m ³	BOD *5	50トン
公共水域(河川等)	851千m ³	COD *5	13トン

*5 排水濃度測定を実施している場合のみ排出量を算出

※ 2013年度実績集計対象事業所はWebに掲載しています。
 ※ 四捨五入の影響により合計数字が異なる場合があります。